

2022年9月吉日

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所 中東研究センター
2022年度 国際シンポジウム開催のご案内

平素は格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

本日は、11月9日・10日に開催を予定しております、日本エネルギー経済研究所中東研究センター主催の2022年度国際シンポジウムについて、ご案内申し上げます。昨年、一昨年は新型コロナウイルスの感染拡大を受けてウェビナー形式での開催となりましたが、本年は一部をハイブリッド形式（実会場での講演とウェビナーを併用）で開催いたします。

本年2月のロシアによるウクライナ侵攻は、国際エネルギー価格の急騰やエネルギー安全保障問題の深刻化といった形で、国際エネルギー情勢に大きな影響を与えており、このような情勢のなか、中東諸国が果たす世界へのエネルギー供給源としての役割に改めて注目が集まっています。米国のバイデン大統領は本年7月、サウジアラビアを訪問しましたが、人権問題への懸念から関係が冷え込む中で行われたこの訪問は、エネルギー市場の安定化という課題の大きさを反映しているように思われます。さらに、ロシアからの天然ガスの供給途絶によりエネルギー危機への不安が高まる欧州諸国は、同国に代わる天然ガスの調達先として中東諸国と交渉している点も注目されます。

一方で、中東諸国は必ずしも安定したエネルギー供給源であるとは言い切れません。イラン核合意の再交渉問題を筆頭に、中東域内の安全保障をめぐる問題は域内の政治的不安定を生んでいます。さらに、2010年代後半の原油価格下落に伴う財政悪化や近年の脱炭素化潮流は、中東諸国の石油依存の経済モデルからの脱却を迫っており、中東諸国における石油関連産業への投資も縮小傾向となっています。これらの課題はいずれも日本を含む全世界を巻き込むものであり、その重要性については強調してもしすぎることはありません。

そこで、本年の国際シンポジウムでは、「エネルギー情勢の変容と中東をめぐる国際関係の展望」と題し、近年のエネルギー情勢の変容に対する中東諸国の対応、および主要国の対中東関係の展望について、英国および中東の第一線の研究者、そして中東研究センターの研究者からの報告を通じて検討いたします。

ご多用の折とは存じますが、奮ってご参加いただけますよう、お願い申し上げます。

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
理事長 寺澤 達也